

『ケベック研究』投稿規程・執筆要項

(2022年6月25日理事会承認)

I. 投稿規程

1. 投稿資格：原則として学会員に限る（依頼原稿はその限りではない）。
2. 使用言語：日本語、フランス語、英語。
3. 原稿：本学会の目的（日本における、ケベックを中心としたフランコフォニーに関する学術研究及び芸術文化交流の振興と推進）に適したテーマで、未発表の完成稿に限る。
4. 原稿種類：次のいずれかに分類し、それぞれA4判用紙横書き（40字×30行）で以下のページ数を上限とする。図表、参考資料、参考文献、注などもこの分量に含める。

- (1) 研究論文 15 ページ以内
- (2) 研究ノート 13 ページ以内
- (3) 書評 4 ページ以内

欧文原稿もこれに準ずる。ただし、必ずネイティブ・チェックを受けたものを提出する。

5. 要旨：研究論文、研究ノートには、200語程度の要旨（ただし本文とは異なる言語による）および、5語以内のキーワード（本文と要旨の言語で）をつける。
6. 投稿申込：原則として電子メールで提出する。

送付先：学会誌編集委員長 大石太郎 (toishi@kwansei.ac.jp)

締切：2023年1月15日23時59分（必着）

提出書類：以下の電子ファイルを提出する。

- (1) 原稿ファイル：原則としてMS Wordを用いて作成し、ファイル名を「ケベック研究投稿原稿（氏名）」（例：ケベック研究投稿原稿（学会花子））とする。送付の際は、「ドキュメント検査」機能を用いて作成者に関する情報を削除しておく。なお、日本ケベック学会ホームページからテンプレート（MS Word）をダウンロードして利用することができる。
 - (2) 原稿送付状：日本ケベック学会ホームページから所定のファイル（MS Word）をダウンロードし、タイトル（和文・欧文）、希望する原稿区分、執筆者名（和文・フリガナ・欧文）、所属機関（役職名は不要、ただし、非常勤講師、大学院生、名誉教授などはそれも記す）、連絡先（電子メールアドレス、緊急連絡用の電話番号）、使用OSおよびバージョンを明記する。
7. 採択：投稿原稿の採否については、編集委員会から委嘱された各専門分野のレフェリーの審査に基づき、編集委員会が決定する（2月末）。採択条件としてレフェリーより修正意見がつけられた論文については、原稿を修正のうえ期日（3月末頃）までに再提出し、修正が十分と判断されれば掲載可となる。なお、下

記の執筆要項通りに執筆されているかどうかは採否の判断基準になるので留意すること。

8. 校正：2回。著者校正は1回のみ、2回目は編集委員会が行う。著者校正時の大幅な書き換えは認められない。
9. ホームページ上での公開：投稿者は、本誌への投稿をもって、掲載論文の電子ファイル(PDF)を日本ケベック学会ホームページにおいて無料で公開することを了承したものとみなす。
10. 掲載誌および抜刷の贈呈：研究論文および研究ノートの執筆者には掲載誌2部、抜刷30部を贈呈する。

II. 執筆要項

1. 本文について

- ① A4判用紙横書き(40字×30行)。
- ② フォントは和文にはMS明朝、欧文と算用数字にはTimes New Roman(半角)を使用する。数字は固有名詞やそれに準ずる表現をのぞいて、なるべく算用数字を用いる(第1章、2人、3つ、など)。
- ③ 文字サイズは、論文タイトル(和文・欧文)12ポイント太字、1行空けて、本文と異なる言語による要旨10.5ポイント、さらに1行空けて、本文10.5ポイント、引用9ポイントとする。原稿に執筆者名は記入せず、執筆者の判明につながる表現(拙稿など)も避ける。
- ④ 和文原稿の句読点には「、」「。」を用い、()は全角とする。
- ⑤ 章、節などの記号をつける場合は、章は「1.」「2.」「3.」、第1章第1節は、「1.1.」のようにする。
- ⑥ 本文中で論者に言及する場合、初出時はフルネームで記載する。外国人名の場合はカタカナ表記の後、()内にアルファベット表記を入れる。外国人名をカタカナで表記する際、姓と名の間などスペースが入る場合は「・」でつなぎ(例：ルネ・レヴェック)、ハイフンでつながれている場合はハイフンの部分を＝で示す(例：ポール＝アンドレ、ジョラン＝バレット)。
- ⑦ 書籍や雑誌などのタイトルには『 』(欧文の場合はイタリック体)を、論文タイトルには「 」(欧文の場合は« »または“ ”)を使用する。
- ⑧ 引用文は、短いものは「 」(欧文の場合は« »または“ ”)でくくって文中で示し、長い場合は左2文字分下げ、9ポイントとし、本文との間に前後各1行のスペースを置く。出典は引用直後に(小畑、2003、pp.120-121)のように示すか、本文に組み込んで「小倉(2010)は・・・を明らかにした」「ノールズ(2014)によれば・・・」のように示す。私信やインターネット上の情報など、文献表に挙げられないものをのぞき、出典明示のみの場合は注で示すことはせず、ibid.等も使用しない。同じ箇所でも複数の文献を引用する場合は、(矢頭、2009; Linteau, 2000, p.12; Fraser, 2014)のように示す。引用文献の編著者が2名の場合は、「・」(欧文の場合はet) でつないで示

す（例：小畑・竹中、2009；Clément et Foucher, 2014；Dickinson et Young, 2008）。編著者が3名以上の場合は筆頭編著者名に「ほか」（欧文の場合はイタリック体で *et al.*）を付して示す（例：盛山ほか、2017；Thériault *et al.*, 2008；Gagnon *et al.*, 2004）。同一編著者で同じ発表年の複数の文献を引用する場合は、引用した順に a、b・・・を付して区別するとともに、文献表と一致させる（例：Linteau, 2000a）。

2. 注について

- ① 注は脚注ではなく、末尾注とし、本文から1行空けて始める。
- ② 注には通し番号をつけ、本文の該当箇所の右肩に上付きで¹のように示す。句読点およびカンマやピリオドがある場合は、その直前に置く。注番号の位置は、本文の読みやすさを考慮して決定する。
- ③ 出典のうち、文献表に挙げられないものに限り、注で示す。インターネット上の情報は開設主体と最終閲覧日を明記し、以下の例のように示す。
（例）日本ケベック学会 <http://www.ajeqsite.org/>（最終閲覧日：2022年6月13日）
- ④ 文字サイズは9ポイントとする。

3. 文献について

- ① 引用した文献は文献表形式で示す。文献表は、注の後に1行空けて始める。文献表に挙げられないものは注で示す。なお、インターネットで入手可能なPDFの資料であっても、刊行年が明確な場合は文献として書籍に準じて引用するとともに文献表に示し、容易に検索できない場合をのぞき、URLは割愛する。電子書籍からの引用は第三者が容易に参照可能である場合に限る。
- ② 文字サイズは9ポイントとする。
- ③ 文献は和文と欧文とを区別せず、編著者の姓のアルファベット順に、同一編著者の文献は発表年順に配列する。編著者が複数の場合にも省略せず、すべての編著者名を示す。欧文文献の編著者名は、筆頭編著者のみ姓を先に示す。
- ④ 文献の示し方は以下の通りとし、日仏以外の言語は、英文の例を参考にすること。

単行本：著者（発行年）『書名』発行所。

雑誌掲載論文：著者（発行年）「論文名」『雑誌名』巻号、頁数。

編集書所収論文：著者（発行年）「論文名」編者『書名』発行所、頁数。

* 洋書タイトルはイタリックとし、発行所（雑誌掲載論文の場合は頁数）の後にピリオドをつける。また、欧文文献の編著者名はすべて大文字で示す。

* 新聞記事のうち、執筆者が判明するものについては雑誌掲載論文に準じて示す。

単行本の例

小畑精和（2003）『ケベック文学研究』御茶の水書房。

- 小畑精和・竹中豊編 (2009) 『ケベックを知るための54章』明石書店。
- 盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編 (2017) 『社会学入門』ミネルヴァ書房。
- ノールズ、ヴァレリー著、細川道久訳 (2014) 『カナダ移民史—多民族社会の形成—』明石書店。(翻訳書の例)
- ナドー、ジャン＝ブノワ／バーロウ、ジュリー著、立花英裕監訳・中尾ゆかり訳 (2008) 『フランス語のはなし—もうひとつの国際共通語—』大修館書店。(翻訳書の例)
- LINTEAU, Paul-André (2000) *Histoire de Montréal depuis la Confédération*, Boréal.
- BOUCHARD, Gérard (2015) *Interculturalism: A View from Quebec*, traduit par Howard SCOTT, University of Toronto Press. (欧文への翻訳書の例)
- CLÉMENT, Richard et Pierre FOUCHER (dir.) (2014) *50 ans de bilinguisme officiel: défis, analyses et témoignages*, Invenire. (2名の編者の例)
- DICKINSON, John et Brian YOUNG (2008) *A Short History of Quebec*, 4th edition, McGill-Queen's University Press. (2名の著者による英文書籍の例)
- THÉRIAULT, Joseph Yvon, Anne GILBERT et Linda CARDINAL (dir.) (2008) *L'espace francophone en milieu minoritaire au Canada: nouveaux enjeux, nouvelles mobilisations*, Fides. (3名以上の編者の例)

雑誌掲載論文の例

- 小倉和子 (2010) 「アキ・シマザキの5部作における詩的象徴性と『移住する(者の) エクリチュール』」『ケベック研究』第2号、33～48頁。
- BROUIN, Martin (2020) « Patrimoine et tourisme: quelques repères pour une longue histoire », *Revue japonaise des études québécoise*, n° 12, pp.3-20.
- FALCONER, James et Amélie QUESNEL-VALLÉE (2014) « Les disparités d'accès aux soins de santé parmi la minorité de langue officielle au Québec », *Recherches sociographiques*, vol. 55, n° 3, pp.511-529. (2名の著者の例)
- GAGNON, Julie Elizabeth, Francine DANSEREAU et Annick GERMAIN (2004) « "Ethnic" dilemmas? Religion, diversity and multicultural planning in Montreal », *Canadian Ethnic Studies*, vol.36, n° 2, pp.51-75. (3名以上の著者による英文論文の例)

編集書所収論文の例

- 矢頭典枝 (2009) 「カナダの言語」日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』有斐閣、118～126頁。
- BISCHOFF, Peter (2014) « Les Irlandais et les chevaliers du travail à Montréal, 1882-1890 », dans Linda CARDINAL, Simon JOLIVET et Isabelle MATTE (dir.) *Le Québec et l'Irlande: culture, histoire, identité*, Septentrion, pp.21-49.
- FRASER, Graham (2014) « Fifty years later: The legacy of the Royal Commission on Bilingualism and Biculturalism », dans Richard CLÉMENT et Pierre FOUCHER (dir.) *Fifty Years of Official Bilingualism: Challenges, Analyses, and*

Testimonies, Invenire, pp.1-13. (英文の編集書所収論文の例)

- ⑤ 複数の版が存在する場合は、自らが依拠した版を引用し、必要に応じて文献表において初版の情報を示す。経緯を述べる必要がある場合は初出の箇所注をつける。

(例) ROY, Gabrielle (1993) *Bonheur d'occasion*, nouvelle édition, Boréal. Édition originale: Société des éditions Pascal, 1945.

4. その他

謝辞は原則として掲載しない。ただし、助成金を受けたり、資料の入手に特別の便宜を受けたりするなど、研究の遂行に不可欠の支援を受けた場合は、本文の後（注の前）に付記として簡潔に記す。なお、付記は投稿時には記載せず、入稿の際に追記する。